

は し が き

言語センター長 副 島 美由紀

『言語センター広報』第30号をお届けいたします。残念ながら、この令和3年度も大学全体がコロナ禍中にあったことにまず言及しなければなりません。が、今年は昨年度当初とは異なり、部分的に対面授業を復活させたり、ハイブリッド方式、あるいはハイフレックス方式を導入しながら授業を行うことが出来ました。その意味では、今年度は文字通り「ウィズ・コロナ時代」であったと言えるでしょう。言語センターではこの「ウィズ・コロナ時代」に対処するため、今年度冒頭にBL1教室のハイフレックス化工事を行いました。「ハイフレックス」というのは「ハイブリッド」と「フレキシブル」を掛け合わせた造語で、一つの授業を対面授業とオンライン授業の双方で同時に受講できるということを意味します。しかし同様の方法でも「ハイブリッド方式」の場合、オンライン授業の参加者が対面授業の配信を主に受動的に聴講し、対面授業の参加者とのインタラクションは不可能だったのに比べ、「ハイフレックス方式」にはマイクを通じて双方の参加者の交信を可能にしたり、ホワイトボードへの板書を専用のカメラによってWeb会議システム内に投影するといった、融合的授業展開を容易にする複数の機能が備わっています。対象がBL1教室のみだったとは言え、このハイフレックス化工事が本年度最初の重要なBL（ブレンディッド・ラーニング）プロジェクト事業、ひいては言語センター全体の事業だったと言えるでしょう。この教室における「ハイフレックス方式」は、企業法学科の講義科目や外国語の授業において利用されています。このように、来年度から始動する北海道国立大学機構の一端としても、また勤労学生も修学できるコースを提供する教育機関としても、言語センターは「アフター・コロナ時代」に有効に対処すべく授業改善の努力を重ねていくつもりです。

さて、令和3年度の人事面に関する報告ですが、まず英語系のジョン・サーマン教授が特任教授に就任いたしました。他方、同じく英語系のダニエラ・カルヤヌ特任教授が本年度末をもって退職なさいます。カルヤヌ先生は平成15年の赴任以来、長年にわたって本学の英語教育を支えて下さり、また、ご専門の言語学系の講義や大学院科目の提供によって英語教員の養成にも多大なる貢献をして下さいました。心より感謝申し上げます。

また、昨年度末のことではありますが、英語系の佐々木香織教授が札幌医科大学へ、韓国語系の李賢峻准教授が武蔵野大学へ転出されました。将来の言語センターを担う人材として囑望されていたお二人の転出はたいへん残念ではありますが、これまでの貢献に感謝し、今後のさらなるご活躍を祈念したいと思います。これにより、カルヤヌ教授の後任も含め、本年度は合計3名の新任教員を採用すべく3つの選考委員会が立ち上がりました。そのうち2つの委員会で結果が得られましたので、来年度内には少なくとも2名の新任教員をお迎えする予定です。

ところで前述のBLプロジェクトですが、予定された期間である6年を終了したことにより、今年度末を持って終了となります。平成28年度に運営費交付金対象事業としてこのプロジェクトが始

まって以来、言語センターはデジタルタスク室のスタッフと共に、「デジタルコンテンツの作成」、「双方向通信授業」、「異文化ビジネス教育」、「外国語を通じた地域貢献」、「小中高大全般における英語 BL の展開」という5つの柱を中心に、デジタル教材作成やICT教育関連の技術習得とその運用に勤んできました。そしてプロジェクトの終盤に発生したコロナ禍によって BL 授業が遠隔授業の一形態として組み込まれたことにより、BLプロジェクトは言わば発展的解消という形で内容的にも無事にその役割を終えました。これまで責任者として活動を統括して下さった前言語センター長の尾形弘人先生、また運営主任を務めて下さったジョン・サーマン先生、ショーン・クランキー先生に感謝申し上げます。さらに、平成30年度からデジタルタスク室のスタッフとして活躍して下さった藤井哲之進氏が、この1月からグローバル戦略推進センターの常勤主任技術職員として勤務を続けられることになりました。BLプロジェクトという枠組みはもはや存在しませんが、今後もICT分野における従来通りの協同作業に期待したいと思います。その他の項目については、以下に報告いたします。

【教員の動向：その他】

- 教授昇任：個別言語部門中国語系、章天明教授（10月1日）
- サバティカル研修の開始：個別言語部門英語系、羽村貴史教授（10月より1年間、米国マサチューセッツ大学アマースト校ユダヤ近東学科（予定）における研修、研究テーマ「ホロコースト表象と行為遂行性」）

【コロナ禍のために中止となった活動】

通常授業による公開講座（夜間主）／英語レクチャー・シリーズによる「異文化ビジネス教育」

【その他の活動】

- 「外国人による集中外国語講座」：ローラ・クドウ講師（英会話）／呉秀娟講師（中国語）／金昌九講師（韓国語）
- 「教員免許状更新講習会」：カルヤヌ教授、ホルスト教授、三ツ木准教授による講習、講習名：「英語による教授法（TETE）ーコミュニケーションな授業のための教材作成とヒントー」（7月24日）。なお、この講習会は、令和4年以降は発展的に解消することが適当であるという中央教育審議会での決定を受け、道内の6国立大学全体の判断により非開設となりました。
- 「第70回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会」：出席はマーク・ホルスト教授、Webexによるオンライン開催、全体テーマ：「連携と共生 変化する高等教育～コロナ禍・ポストコロナを見ずえて～」（9月2日・3日）
- 「オープンキャンパス」（Web 公開）：昨年度と同様、高橋優季教員（英語系）による模擬授業「瞬きの間に見える妖精の世界ー英米文学における妖精詩の世界」の公開（8月2日～8月31日）
- 「双方向通信授業」：カルヤヌ教授がZoom やアプリを活用して以下のような授業を5クラスにおいて行いました。シレジア工科大学（ポーランド）とのコラボレーション授業：ペーチ大学（ハンガリー）、ダービー大学（英国）の教授、ルーマニア、エストニアのライター、ハンガリー、ルーマニア、北マケドニアの大学生とオンライン上で交流する授業。
- 「教職研究会」：オンライン（Zoom）および本学BL2教室にて開催。（12月4日）